

キャビちゃんのちよつとい話 Vol.12

H18.3.1発行
作成：スタッフ一同
監修・発行：かだ動物クリニック
tel 0944-56-7100
fax 0944-56-7107

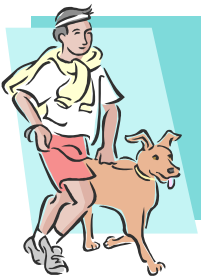


待合室の水槽の風景がだいぶ変わりました。久しぶりに水槽の仲間達について話をしたいと思えます。昨年、スッポンモドキ(カメ)の“かんだ”と“フラワーホーンのいつも隅っこにいたコ”が、いなくなりました。“かんだ”は元々泳ぎも下手っぴで、なかなか上手くごはんを食べる事が出来なくて、それでも少しずつは大きくなっていました。“フラワーホーン”はいつまでも“しまじろう”に隅っこにやられながらも、ご飯の時間は誰よりも先に食べに来るようなコでした。……一日一日が過ぎるのは早いもので、今はまた、新しい生活が始まり、新たな『魚社会』ができています。“しまじろう”は変わらず、いじめっ子。今度はパロットファイアの“なにちゃん”が標的のようで、隅っこに追いやられています。(しまじろうが来るまでは、なにちゃんがいじめっ子だったのに…世代交代ってやつですかね!?)クラウンローチの2匹は、体長が小さいうちは穏和で臆病な方と紹介していましたが、どんどん、どんどん大きくなって、それとはかけ離れているようです。動きが早いので、“しまじろう”からいじめられても、なんのその!!逆に、おちょくってるの!?!って思う程。しまいには横になって寝る始末。「亡くなってますよ」って間違われる事も度々です。そしてスッポンモドキの“とんきち”“ちんぺい”2匹は仲良しで平和主義というか「我が道を行く」って感じ。全く回りに関係ないようです。……が、ごはんの時は人が変わる?カメが変わる?必死になって食べてます。そこでちょっと不思議に思うこと……ごはんと間違えて、よく底の石を食べているのですが、この石、どこに行くんでしょう?知ってる方、教えてください。

春の管理

寒い寒い冬から、ポカポカと気持ちの良い春へと季節は変わりつつあります。ワンちゃん・ネコちゃんもとっても元気ハツラツ!な時ですね。冬に備えてついてしまった『脂肪』。必要以上についたりしてませんか?これから暖かい季節に向けて、必要のない脂肪は落としていかないとはいけませんね。

摂取カロリー > 消費カロリー = 肥満 これを忘れず、皆さんのワンちゃん・ネコちゃんに必要な食事量を決めましょう。この食事量には食器で与えている朝晩の食事以外に、ご褒美やおやつで与えているジャーキーやビスケットなども含まれますよ!また、冬の間ですっきり鈍ってしまった体を鍛え、消費カロリーを増やす事も肥満防止につながります。公園で冬よりも長い時間遊んだり、時には山に出かけたりするのもいいですね。(暖かくなるとノミやダニ、カイセンなどの予防も必要です。予防方法はスタッフにご相談ください)室内飼いのネコちゃんは玩具を利用し、運動させてあげましょう。



わんこ・にゃんこ日記

皆さんのワンちゃん・ネコちゃんは首輪をつけていますか?ほとんどの方が使われていると思いますが、来院するワンちゃん・ネコちゃんの中には首輪がゆるすぎるコが時々見られます。「苦しそうでかわいそう……」と言われる方もいらっしゃいますが、適正につけられてないと思わぬ事故が起こることもあります。首輪に付いている鈴や鑑札にじゃれたり、かんだりしているうちに、首輪が口にスポツとはまってしまふ。そんな時には、もうパニックを起こして暴れた挙句、口の周りを血だらけにして病院に来るコたちもいます。そんな事にならないように皆さん気をつけてくださいね。



病気シリーズ

腎不全

腎臓は体内の老廃物を排泄するための重要な臓器であり、その腎臓の機能が不十分なために起こる臨床症状の事を腎不全といいます。腎臓はネフロンといわれる機能単位の集まりで、このネフロン1つ1つが血液を濾過し、尿を産生しています。ネフロンは1つの腎臓につき、猫で19万個、犬で43万個もありますが、1度その機能が損なわれると元に戻りません。

<原因>

腎不全の原因としては様々ですが、老齢による変化の他、ショックや脱水による腎血液の低下、腎臓腫瘍や腎のう胞など腎臓そのものの疾患、膀胱破裂や尿閉塞などがあります。腎臓以外に原因がある場合は、速やかにその治療をすることによって腎不全の進行を防ぐ事が出来ます。

<症状>

腎不全の進行程度によって症状は様々ですが、初期の場合は多飲多尿が多く見られます。その他の症状としては、食欲不振、体重減少、嗜眠(よく寝る)、貧血があります。そして腎不全の後半～末期になると、嘔吐・下痢などの消化器症状の他、神経症状も出てきます。

<さいごに>

腎臓は予備能力の高い臓器であるため、その75%以上が障害を受けないと症状が現れてきません。そのため気がつかないうちに腎不全が進行している事もあります。出来るだけ早く発見するために、中年～高齢のワンちゃん・ネコちゃんには定期的な血液検査をおすすめします。

歯科シリーズ

噛む

歯周疾患は食生活(食べ方、おやつ、食事内容)と密接に関係しています。よく噛むことは歯周疾患予防に重要です。適正な食事やおもちゃで噛む回数が増えれば、歯垢や歯石の付着は少なくなります。よく噛むことで唾液分泌が促進され、口腔内の汚れが減少し、歯周疾患の予防になります。噛まずに飲み込むような食べ方だと歯垢などは研磨されません。片側の顎で食べる癖がある場合、左右の歯周疾患の発生が異なるという事もあります。また、噛む事は他にも重要な影響があります。ヒト同様、動物においても、学習・記憶に関与している事が証明され、噛む事で認知症の予防になることが分かっています。

医療機器紹介

顕微鏡

診察室の奥に並ぶ検査機器の中に顕微鏡があります。人間の眼では確認できないほどの小さな細菌や寄生虫、血液、尿、細胞の状態など様々な情報を得ることで、迅速に動物達の健康状態を知る事が出来ます。また、飼主さんにも実際に見てもらえるようモニターに映し出す事が可能です。



スタッフ セミナー出席報告

中村先生

11/29～30「動物呼吸器病学」のセミナーに出席しました。どちらかと言うと苦手な呼吸器病ですが、頑張って勉強してきました。

2/9「ヒルズ学術講演会・皮膚疾患を考える」に出席しました。様々な皮膚病疾患や外耳炎の診断や治療など、とても勉強になりました。

江頭先生

シリーズ「麻酔」セミナーに出席しました。今回は麻酔中の呼吸管理について学んできました。より安全な麻酔管理のために頑張ります。